平成29年1月16日（日）陸奥新報（2面）

寝たきりゼロ実現探る

弘前でシンポ　先端医療など紹介

パネルディスカッションで、医療の革新と地方創生に向けた意見を述べるパネリストら

「ひろさきライフ・イノベーションシンポジウム」（弘前市主催、弘前大学共催）が15日、同市のアートホテル弘前シティで開かれ、医療関係者や一般市民ら約350人が、寝たきりゼロ社会を目標とした健康増進の在り方を考えた。

先端医療振興財団臨床研究情報センターの福島雅典センター長が「健康長寿社会の建設と医療革命」の題で基調講演。新しい医療の登場により、寝たきりゼロ社会の実現に向けた「リーチという所まできているが、適切な医療政策と適切な投資が求められる」と指摘した。

特別講演では識者3氏が登壇。このうち、筑波大学大学院教授でCYBERDYNE社長の山海嘉之氏は、ロボットスーツHALによる先端医療を紹介。難病で歩行が難しかった人々が、医療用HALの装着により症状が改善する様子を紹介した。

後半のパネルディスカッションでは、識者らが革新的医療の推進に取り組む弘前の姿勢を評価。山本昇副市長は「さまざまな動きを理解しながら取り組みを進めたい」と述べた。

持続性のあるシステムとし、市民に提供していく。アンテナを高くして常に情報を取り、

（渋谷紘一）